

OJTによる学生の自主性を育む支援

松江工業高等専門学校 教務主事（数理科学科・教授） 勝部 豊

1. 取組全体の概要と目的

「価値観の多様化」がいわれ、多様な選択肢からの自己責任による選択が求められている。しかし、将来の自分のための選択には、具体的な将来像の獲得と自己変革の積極的な姿勢が必要となる。

松江高専では、自己を向上させようとする「自主性」を育むことを教育方針としてきた。まず1～3年を「自主性を育てる段階」とし、多様な学生に対応する手厚い指導を行い、そして4・5年を「自主性を伸ばす段階」とし、自己選択の姿勢を求めている。またキャリア教育により将来像の明確化を促している。

しかし、学生の質的な変化により的確に対応することが急務とされてきている。本取組は、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング＝実地訓練）の手法により、自己を向上させようとする学生の自主性を育むことを目的としている。この目的の達成のため、現在既に確立されている教職員による学生支援のための連携、および学生会・寮生会活動を中心とする学生主体の活動を、さらに強化する2つの取組を新たに行った。

第1は、「自主性を育てる段階」と位置づけた1～3年を主な対象として、学内でのOJTによる教職員のカウンセリングマインド（共感的理解・傾聴・受容の姿勢）向上を図る取組（以下、[教職員OJT]と略称する）である。多様な学生に対応する手厚い学習指導・生活指導を行うために、教職員のカウンセリングマインドを専門家の助けを借りて向上させることを目的としている。

第2は「自主性を伸ばす段階」と位置づけた4・5年を主な対象として、学外でのOJTによる学生のリーダーシップ能力向上を図る取組（以下、[学生OJT]と略称する）

である。卒業生の資質と能力についてのアンケート結果から、高専卒業生の短所としてコミュニケーション力・リーダーシップ能力の不足が明らかになってきた。これらを向上させるために、学内から学外へ活動の場を移した、学生自らの企画・運営による取組によって経験を積むことを目的とする。

学内でのOJTによる教職員の カウンセリングマインド向上

＜これまでの取組：1～3年生対象＞

多様な学生に対応する手厚い
学習指導・生活指導

- ・朝の教員連絡会（毎日）
…行事や学生の動向などの情報の共有化
学生指導の統一化
- ・学年会（週一回）
…担任、教務・学生・寮務委員会および
学生相談室が参加
- ・学生相談室（毎日一時間）
…学生相談室員（教員5名による交代制）
が放課後に待機

学外でのOJTによる学生の リーダーシップ能力向上

＜これまでの取組：4・5年生対象＞

受身の姿勢から自ら行動する姿勢
となる指導

- ・選択教室制（クラスルームの撤廃）
…学科間共通講義科目の開講
- ・学生掲示板による情報連絡
…「担任制」から「アドバイザー制」へ！
指示待ち姿勢からの脱却
- ・学生会・寮生会活動における
自主的な行事の企画・運営

図 新たな取組と関連したこれまでの取組

2. 取組の進捗状況

[教職員OJT]

- ①新版 TEG II「東大式エゴグラム」（教職員・学生対象）、「カウンセリングマインドに関する教職員アンケート」（教職員対象）を実施した。これらにより学生支援に関する取組に臨む際の姿勢や意識を把握し、学年会・学生相談などの場で学生支援を行う際の基礎データを得ることができた。
- ②新たに配置したカウンセラー1名（臨床心理士・女性・週3回・20時間）、相談員1名（臨床心理士・男性・週4回・20時間）が、教職員連携の場（週1回の学年会、教員連絡会など）へ参加することにより、それぞれの場で専門的かつ即時的・直接的な助言を得ることができている。

またカウンセラー・相談員が1～3年生全員との面談を行った上で学生からの相談に対応したところ、相談件数は前年度の約3倍に増加した。なかでも進路関係の悩みを抱える学生に対応するため、「進路学習相談室」の設置（H20 後期より教員に加えて学生チューターも配属）、「キャリア形成ガイド」の作成を行った。



多様化

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

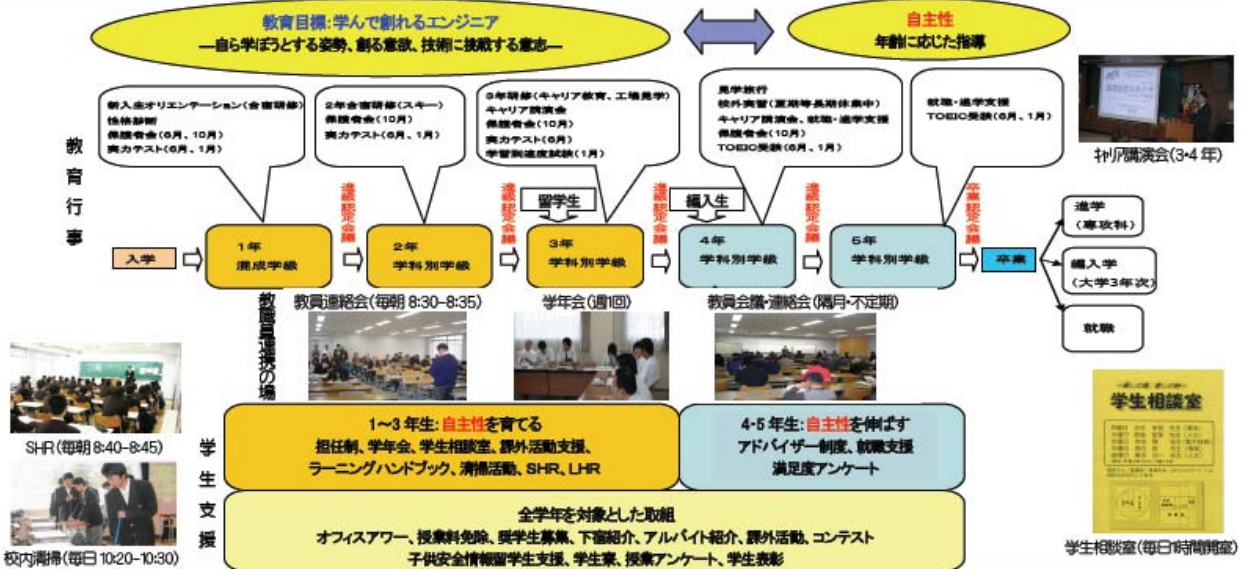
OJTによる学生の自主性を育む支援

少子化

—教職員のカウンセリングマインドと学生のリーダーシップ能力の向上—

独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校

松江高専の現状 — 入学から卒業までの学生支援の流れ —



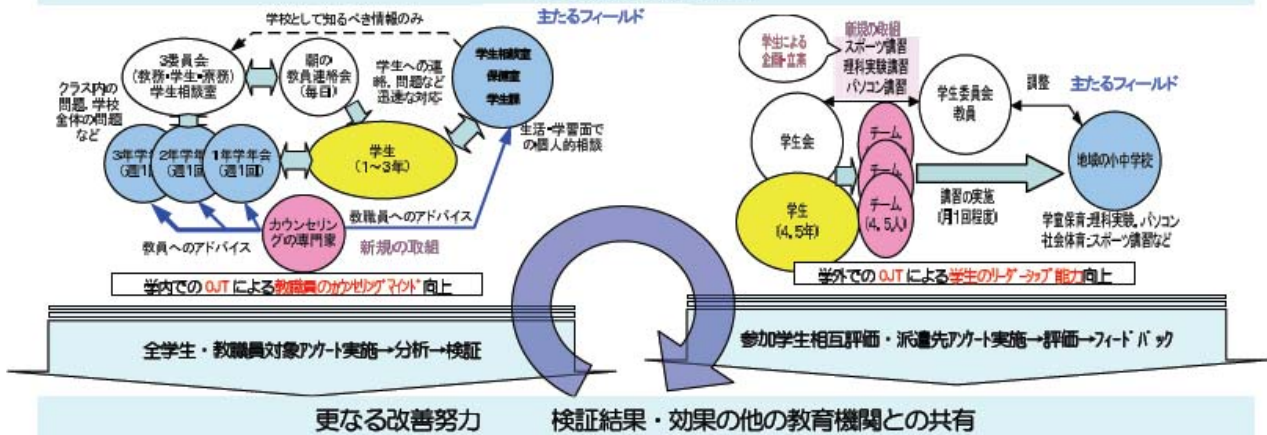
現在の取組の効果



現在の取組の不十分な点

- ①現代の若者が抱える問題の多様化と複雑化 → 学内でのOJTによる教職員のカウンセリングマインド向上
- ②多様な背景を持つ集団の中でのコミュニケーション能力・マネジメント能力の必要性 → 学外でのOJTによる学生のリーダーシップ能力向上

新たな取組の趣旨と目的



- ③教職員対象のメンタルヘルス研修会（H20.3.13「思春期の若者の心理」、H20.8.11「発達障害とは何か」）を開催した。また新しい試みとして、保護者・教職員対象の講演会（H20.10.19「ご存じですか？高専生の悩み～事例と対応～」）を開催したところ、約130人が参加した。
- ④新任教員6名を含む教職員30名、および学生20名が参加した教員等外部研修（H20.12.20-21）を国立山口徳地青少年自然の家にて実施した。徳地アドベンチャー教育プログラム（TAP）による研修に加え、徳山高専カウンセラーを講師に迎えた講演会、学生支援に関する事前アンケートに基づく討論会を行った。

〔学生OJT〕

地域の小中学生を対象に、以下に挙げる講習会を行った。講習を行う学生チームの代表と派遣先責任者との事前打ち合わせを経て、学生による企画・進行案などに関する派遣先責任者からの意見・要望も考慮しながら講習会を実施している。これにより、学生のコミュニケーション能力・リーダーシップ能力・マネジメント能力を向上させることができた。講習会実施後、参加学生を対象とした相互評価アンケート（チーム内の役割分担や、議論の場での発言姿勢についてなど）、派遣先を対象としたアンケート（講習内容の分かりやすさ・理解度や、学生の取組姿勢についてなど）を実施することで、問題点を把握し、改善につなげた。

◎実施した講習会

- ・小中学校部活動（陸上競技、バスケットボール、バレーボール）に対する技術講習
- ・紙皿を材料としたフリスビー製作
- ・牛乳パックリモコンカー製作
- ・「おもちゃの病院」での修理ボランティア
- ・ペットボトルロケット打上講習
- ・山城遺構の測量調査および成果発表

こうした両OJTの活動をふまえ、H20.3.26に中間報告会（講演「地域を学び、地域で育ち、地域を助ける―効果的な自立支援活動のあり方について―」、活動報告、講評会）、H21.1.10に最終報告会（活動報告、講演「助けることは助かること―地域力を活用した社会的人間の育成―」、パネルディスカッション「自主性を育む学生支援」）を実施した。

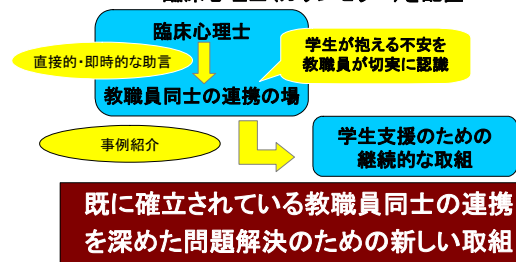
3. 今後の課題

〔教職員OJT〕を通して得られた専門的かつ即時的・直接的な助言について、「SDの日」（全教職員対象）や新任教員に対する研修などの場で情報の共有化を図る必要がある。また、徐々に増加傾向にある学生からの相談に対応するため、カウンセラー・相談員の継続配置を見越した恒久的な財源の確保が急がれる。

一方〔学生OJT〕を通しては、小中学校・公民館組織などの地域との繋がりを築くことができた。こうした取組を継続的に行うため、学内の学生会・寮生会組織への引継や広報活動との連携を図る必要がある。

教職員OJTの独自性・有効性

教職員同士の連携の場（学年会等）に
臨床心理士（カウンセラー）を配置



学生OJTの独自性・有効性

学内の学生グループの活動を学外に展開

